果　樹　の　生　育　概　況

令和４年３月２２日現在
福島県農業総合センター果樹研究所

１　気象概況

３月１～４半旬の平均気温は5.4℃で、平年より1.1℃高かった。またこの期間の降水量は54.0mmで平年比119%、日照時間は139.4hrで平年比106%だった（表１）。

表１　半旬別気象表（果樹研究所）

月	半旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
3	1	4.2	3.6	+0.6	11.3	8.5	+2.8	-2.1	-0.8	-1.3	0.5	10.0	5.0	30.9	31.9	96.9
	2	3.5	3.5	+0.0	9.4	8.5	+0.9	-1.6	-0.9	-0.7	2.5	11.5	21.7	42.0	33.6	125.0
	3	7.8	4.7	+3.1	16.2	10.2	+6.0	1.6	-0.3	+1.9	2.5	11.8	21.2	33.2	31.1	106.8
	4	5.9	5.6	+0.3	11.1	11.2	-0.1	1.6	0.7	+0.9	48.5	12.2	397.5	33.3	34.8	95.7
平均･合計		5.4	4.4	+1.1	12.0	9.6	+2.4	-0.1	-0.3	+0.2	54.0	45.5	118.7	139.4	131.4	106.1

２　発芽状況

モモ、ナシ、リンゴの各樹種において、発芽は確認されていない（３月18日現在）。

３　発育予測

仙台管区気象台が３月17日に発表した１ヶ月予報によると、向こう１ヶ月の気温は平年並または高い確率ともに40%となっている。

今後の気温が平年より２℃高く経過した場合は、各樹種の発芽はモモ「あかつき」が３月27日頃で平年より３日遅く、ナシ「幸水」が４月１日頃で平年並、リンゴ「ふじ」が３月25日頃で平年より２日早いと予測される。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右されるため、今後の気温の推移により大きく変動することがあるので注意する。

表３　発芽予測日［発育速度（ＤＶＲ）モデルによる発育予測：３月22日現在］

	発芽日		今後の気温経過			２週間予測
	昨　年	平　年	平年並	２℃高い	２℃低い	
あかつき	３月16日	３月24日	3月28日	３月27日	3月30日	３月28日
幸　　水	３月24日	４月１日	４月３日	４月１日	４月６日	４月３日
ふ　　じ	３月21日	３月27日	３月26日	３月25日	３月28日	３月26日

注1）発芽日の平年は1991～2020年の平均値。
注2）２週間予測とは、気象庁が発表している２週間気温予報を反映し、２週間以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。
注3）発育予測は２～３日の誤差を生じる場合があることに留意する。

４　病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は、発芽状況を確認しながら、温暖無風の日を選んで遅れないように確実に実施する。

（１）リンゴ

近年、腐らん病の発生が多くなっているため、休眠期の防除を徹底する。発病部は削り取るかせん除し、薬剤による防除としては発芽前に石灰硫黄合剤　10倍またはベフラン液剤25　500倍のいずれかを温暖無風の日に散布する。

輪紋病の発生が多い園等で枝幹にいぼ病斑がみられる場合は、病患部を削り取る。
うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図る。
リンゴハダニの越冬卵量が多い園では、発芽1週間前までに機械油乳剤 95 25倍または発芽直前にハーベストオイル 50倍を散布する。また、発芽前までに機械油乳剤 95 及びハーベストオイルを散布できなかった場合は、発芽後1週間までにハーベストオイル 100倍を散布する。

（２）モ　モ

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむ頃まで）にキノンドー水和剤 40　500倍、石灰硫黄合剤　10倍、チオノックフロアブル　500倍、トレノックスフロアブル 500倍のいずれかを散布する。
コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布する。
ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類に対しては、発芽前に機械油乳剤 95 25倍を散布する。
ハマキムシ類の発生が多い場合は、発芽期から開花期前後に防除を実施する。なお、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意する。

（３）ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむ頃まで）にキノンドー水和剤 40　700倍、石灰硫黄合剤　10倍、チオノックフロアブル　500倍、トレノックスフロアブル 500倍のいずれかを散布する。
コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500倍を樹幹部及び主枝に散布する。
カイガラムシ類に対しては、発芽前に機械油乳剤 95　25倍を散布する。モモアカアブラムシまたはカイガラムシ類を対象とする場合は、ハーベストオイル 50 倍を散布してもよい。
ハマキムシ類の発生が多い場合は、発芽期から開花期前後に防除を実施する。なお、有機リン剤等の訪花昆虫に影響がある薬剤を使用する場合は使用時期に注意する。

（４）ナ　シ

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん除する。

（５）ブドウ

晩腐病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図る。また、発芽前にデランフロアブル 200倍、パスポート顆粒水和剤　250倍、ベンレート水和剤　500倍のいずれかを散布する。
昨年、ハダニ類の発生がみられた場合は、石灰硫黄合剤 20倍を散布する。